

看護学科

1 教育目的

看護師として必要な知識、技術を系統立てて教授するとともに、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重できる人間性を養い、地域に貢献できる看護実践者を育成する。

2 教育目標

- (1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する能力を養う。
- (2) 対象者・家族等との関係性の構築や、チームケアを実践するために必要なコミュニケーション能力を養う。
- (3) 科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的臨床判断能力を養う。
- (4) 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
- (5) 看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。
- (6) 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び多職種との役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供する基礎的能力を養う。
- (7) 専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質の向上を図る基礎的能力を養う。

3 基礎看護教育における概念枠組み

看護の主要概念である **人間** **健康** **環境** **看護** および**学習** **教育**を以下に定義する

人間

- (1) 人間は、身体的・精神的・社会的に統合された存在である。
- (2) 人間は、環境に影響を与え、環境も人間に影響する。人間と環境は互いに相互作用する。
- (3) 人間は、生活の中で健康を創造する。
- (4) 人間は、成長発達し続ける存在であり、それぞれの発達段階において課題をもっている。
- (5) 人間は、よりよく生きるための身体的・精神的・社会的ニーズ(欲求)をもっており、自己実現を旨とする存在である。

健康

- (1) 健康とは、環境に適応し、身体的・精神的・社会的機能を発揮し、その人らしく生き生きと生活している状態である。
- (2) 健康は、環境の中でたえず流動している。
- (3) 健康は、最高の健康の極から死の極に至る連続体である。
- (4) 健康は、個別的なものであり、個人的に調和がとれている状態をいう。

環境

- (1) 環境は、生命と発達に影響する物理的・生物的・社会的・文化的なもので、人間を取りまくすべてを指し、内部環境と外部環境に大別される。
- (2) 環境は、人間と相互に影響しあい変化する。

看護

- (1) 看護は、あらゆる成長・発達段階にある人々の生活機能や生活の質に焦点をおき、健康や障害の状態に応じた援助を行うダイナミックな働きである。
- (2) 看護は、対象となる人の成長、望ましい健康状態の回復・維持・増進および安寧な死への支援をする人間関係を基盤としたサービスである。
- (3) 看護は、対象の健康上の課題を明らかにし、個別的に課題解決をする。
- (4) 看護は、社会のニーズに伴い変化する保健・医療・福祉の場面で、看護専門職としての役割を担う。

学習

- (1) 学習は生きる力を育み生活を豊かにする。
- (2) 個人の内発的動機付けによって新たな興味・関心を生み、主体的に取り組む活動につながる。
- (3) 学習は、持続的な行動の変容である。

教育

- (1) 学習者と教育者の相互作用の中で、共に成長しあう。
- (2) 一人一人を尊重し、その人らしさを伸ばし可能性を引き出す。
- (3) 学習者が自分で望ましい方向へ変化するように、教育者が意図的・計画的に働きかける。
- (4) 将来を見据え、社会のニーズに対応した看護を实践できる人を育てる。